

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年9月17日(2009.9.17)

【公表番号】特表2009-506069(P2009-506069A)

【公表日】平成21年2月12日(2009.2.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-006

【出願番号】特願2008-528217(P2008-528217)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/439	(2006.01)
A 6 1 K	31/401	(2006.01)
A 6 1 K	31/506	(2006.01)
A 6 1 K	31/445	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/24	(2006.01)
A 6 1 P	25/22	(2006.01)
A 6 1 P	25/20	(2006.01)
A 6 1 P	25/18	(2006.01)
A 6 1 P	25/28	(2006.01)
A 6 1 P	25/30	(2006.01)
A 6 1 P	25/32	(2006.01)
A 6 1 P	25/36	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	27/02	(2006.01)
A 6 1 P	25/08	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	31/439	
A 6 1 K	31/401	
A 6 1 K	31/506	
A 6 1 K	31/445	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	25/24	
A 6 1 P	25/22	
A 6 1 P	25/20	
A 6 1 P	25/18	
A 6 1 P	25/28	
A 6 1 P	25/30	
A 6 1 P	25/32	
A 6 1 P	25/36	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 P	27/02	
A 6 1 P	25/08	

【手続補正書】

【提出日】平成21年7月30日(2009.7.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

対象又は患者の、細胞変性、精神状態、細胞の外傷及び／又は傷害に関連する神経系障害、或いは他の神経学的に関連する状態を治療するための組成物であつて、ムスカリン様作用剤を含んでなるとともに、任意により他のムスカリン様作用剤、及び／又は、他の神経原性剤を含んでなる組成物。

【請求項2】

前記の細胞変性に関連する神経系障害が、神経変性障害、神経幹細胞障害、神經始原細胞障害、網膜の変性疾患、虚血性障害、及び、それらの組合せから選択される、請求項1記載の組成物。

【請求項3】

前記の精神状態に関連する神経系障害が、神経精神疾患、情動障害、鬱病、軽躁病、不安発作、不安症、過度の高揚感、双極性鬱病、双極性障害（躁鬱病）、季節的な気分（又は情動）障害、統合失調症及び他の精神病、脳回欠損症候群、不安症候群、不安障害、恐怖症、ストレス及び関連症候群、認識機能障害、攻撃性、薬物及びアルコール乱用、強迫的行動症候群、境界性人格障害、非老年性認知症、疼痛後鬱病、産後鬱病、脳性麻痺、及びそれらの組合せから選択される、請求項1記載の組成物。

【請求項4】

前記の細胞の外傷及び／又は傷害に関連する神経系障害が、神経学的な外傷及び傷害、外科手術に関連する外傷及び／又は傷害、網膜の傷害及び外傷、癲癇に関連する傷害、脊髄傷害、脳傷害、脳の外科手術、外傷に関連する脳傷害、外傷に関連する脊髄傷害、癌治療に関連する脳傷害、癌治療に関連する脊髄傷害、感染に関連する脳傷害、炎症に関連する脳傷害、感染に関連する脊髄傷害、炎症に関連する脊髄傷害、環境有害物質に関連する脳傷害、環境有害物質に関連する脊髄傷害、並びにそれらの組合せから選択される、請求項1記載の組成物。

【請求項5】

前記の神経学的に関連する状態が、学習障害、記憶障害、自閉症、注意欠陥障害、ナルコレプシー、睡眠障害、認知障害、癲癇、側頭葉癲癇、及びそれらの組合せから選択される、請求項1記載の組成物。

【請求項6】

前記精神状態が鬱病を含んでなる、請求項3に記載の組成物。

【請求項7】

前記ムスカリン様作用剤がサブコメリンである、請求項1～6の何れか一項に記載の組成物。

【請求項8】

前記鬱病が、対象又は患者によるモルヒネ、アルコール、又は薬物の使用に起因する、請求項6記載の組成物。

【請求項9】

前記ムスカリン様作用剤がサブコメリンである、請求項8記載の組成物。

【請求項10】

前記ムスカリン様作用剤が、AChE阻害剤、例えば有機リン酸、アミノアクリジン、カルバマート、フェナントリン誘導体、ピペリジン誘導体、イトプリド、(-)-ヒューペルジンA、又はフェンセリン等である、請求項1～6の何れか一項に記載の組成物。

【請求項11】

前記AChE阻害剤が、メトリホナート、エコチオファート、タクリン、フィゾスチグミン、ネオスチグミン、リバストチグミン、ガランタミン、ドネペジル、イトプリド、リバストチグミン、臭化水素酸ガランタミン、(-)-ヒューペルジンA、又はフェンセリンで

ある、請求項 9 記載の組成物。

【請求項 1 2】

対象又は患者への移植用の細胞又は組織を調製する方法であって、上記の細胞又は組織を、任意により他のムスカリン様作用剤、及び／又は、他の神経原性剤との併用で、ムスカリン様作用剤と接触させ、上記の細胞又は組織の神経発生を刺激又は増強する工程を含んでなる方法。

【請求項 1 3】

生体外において、細胞又は組織における神経発生を刺激又は増強するための方法であって、

上記の細胞又は組織を、任意により他のムスカリン様作用剤、及び／又は、他の神経原性剤との併用で、ムスカリン様作用剤と接触させる工程を含んでなり、

上記ムスカリン様作用剤又は併用が、上記の細胞又は組織において神経発生を引き起こすのに有効である、方法。

【請求項 1 4】

前記の細胞又は組織が、動物対象又はヒト患者由来である、請求項 1 3 記載の方法。

【請求項 1 5】

前記患者が、神経発生を必要とする患者、又は、中枢又は末梢神経系の疾患、状態又は傷害と診断された患者である、請求項 1 4 記載の方法。

【請求項 1 6】

前記神経原性剤が、オピオイド又は非オピオイド神経原性剤である、請求項 1 3 ~ 1 5 の何れか一項に記載の方法。

【請求項 1 7】

前記非オピオイド神経原性剤がドーパミンである、請求項 1 6 記載の方法。

【請求項 1 8】

前記神経発生が、ニューロンの系統に沿った神経幹細胞 ( N S C s ) の分化を含んでなる、請求項 1 3 記載の方法。

【請求項 1 9】

前記神経発生が、グリア細胞系統に沿った神経幹細胞 ( N S C s ) の分化を含んでなる、請求項 1 4 記載の方法。

【請求項 2 0】

前記のオピオイドが、オピオイド受容体拮抗薬である、請求項 1 6 記載の方法。

【請求項 2 1】

前記オピオイドが、オピオイド受容体選択的拮抗薬である、請求項 2 0 記載の方法。

【請求項 2 2】

前記オピオイドが、J D T i c 、ノル・ビナルトルフィミン及びブプレノルフィンから選択される、請求項 2 1 記載の方法。

【請求項 2 3】

前記の細胞又は組織が、神経発生の減弱を示す細胞又は組織、或いは、神経発生を減弱又は阻害する薬剤に晒されている細胞又は組織である、請求項 1 4 又は請求項 1 5 に記載の方法。

【請求項 2 4】

前記の神経発生を減弱又は阻害する薬剤が、オピオイド受容体作動薬である、請求項 2 3 記載の方法。

【請求項 2 5】

前記オピオイド受容体作動薬が、モルヒネ又は他のアヘン剤である、請求項 2 4 記載の方法。

【請求項 2 6】

前記の対象又は患者が、1 又は 2 以上の薬物中毒又は依存状態を患っている、請求項 1 4 又は請求項 1 5 に記載の方法。